

【24 時間対応：最新の手術室】

前回特集しました様に、私たちは「救急は地域医療の要」であると考えておりますが、同時に確かな高度医療があつてこそ、その救急医療を支えることができるとも考えております。新病院では、これらの患者さんの検査や治療の為の様々な機器や諸室を用意しており、今号では手術室についてスポットをあててみました。

■現在の手術状況

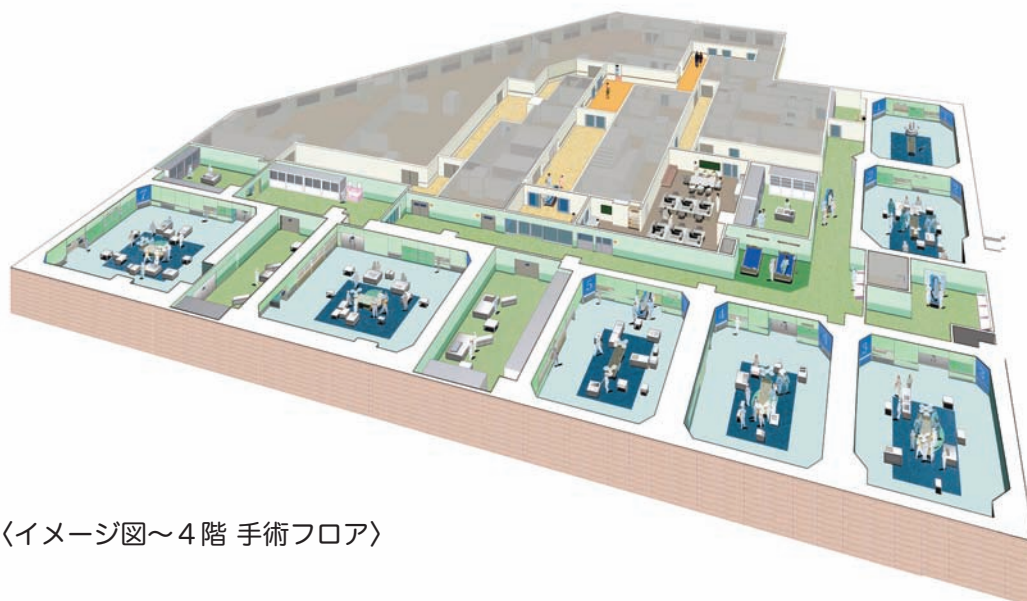
救急病院である当院では、昼夜を問わず重症の患者さんが搬送され、緊急手術も少なくありません。その為、現在の川崎幸病院では緊急手術は全手術症例の2割程度と全国的に見ても群を抜いた値となっておりますが、それ故に症例によっては予定手術が数ヶ月待ちの患者さんもおります。特に大動脈疾患の手術は10時間を超えることも希ではなく、現在の手術室数(川崎幸病院3室+中原分院1室)がネックになることがしばしばあります。また、手術室ならどの部屋でも良いというのではなく、症例によっては症例特有の設備を要した手術室を使用しなければなりません。

■新病院での手術室構想

〈7つの手術室と展開室〉

新病院では、4階フロアは総て手術関連のエリアとなり、手術室としては7室を予定しています。これは入院病床100床あたりの手術室数としては国内でもトップクラスであり、またいずれの手術室も重症手術を想定した設備で、施設規模からいっても室数/内容共にたいへん重装備となります。さらに、手術室間に展開室を設けることにより、手術中に別のスタッフが次の患者さんの手術機器を別室で展開し準備を行うことで、手術と手術の合間の時間を短縮することが可能です。

当院は救急病院であり24時間緊急の手術が多く行われていますが、新病院ではこれらの設備により「手術室が使われていて緊急の手術が入れられない」といった問題も激減します。



〈イメージ図～4階 手術フロア〉

〈ITシステムとの連動〉

総ての手術室には大型モニタが設置され、電子カルテ、麻酔情報、放射線画像といった各種情報が総合的に確認でき、手術の安全性・効率化に役立ちます。また全室、手術部位の動画映像が撮影可能で、ネットワークを介し別の部屋でのモニタを利用したインフォームドコンセント等にも利用可能です。

〈災害時〉

大震災時等でも継続して手術が可能な様に、建物が免震構造であるだけでなく、大規模停電時でも手術室の空調（クリーン度）、照明や機器類の電源は全室自家発電装置にてバックアップされております。

手術フロアでは、以上の様な設備を軸に、24時間態勢で緊急患者さんの受入をよりスムーズにすると同時に、予定手術も含めた総ての手術において、最新でより安全性の高い手術を目指します。

